

ビール粕の飼料利用について

京丹後市弥栄町の道の駅「丹後王国」にある株式会社丹後王国ブルワリーでは、丹後地域の活性化を目指して自社開発製造の自家製品（クラフトビールなど）による地域への観光誘客を推進しています。

今般、地ビールに対する需要の高まりから、徐々に増えつつあるビール粕の有効活用を模索される中、当牧場での利用について依頼がありました。

SDGsの観点から、繋養牛へ継続的に給与する飼料化を目標に、長期保存するうえで高水分のビール粕の水分をいかに下げて乳酸発酵させ、牛にとって美味しい飼料へと変化させるのか、当场職員が意見を出し合いながら試作しています。



(左)排出されるビール粕

(中)麦芽原料

(右)試作する職員

碓高原牧場